



頻回に処方する睡眠のクラスに関連する因子

	BZを頻回に処方する医師 (N=522)	NBZを頻回に処方する医師 (N=725)	MRAを頻回に処方する医師 (N=549)	ORAを頻回に処方する医師 (N=811)
効果を重視				
No	Reference	Reference	Reference	Reference
Yes	2.26 (1.56-3.27)	2.43 (1.62-3.67)	0.73 (0.53-1.02)	1.60 (1.01-2.54)
安全性を重視				
No	Reference	Reference	Reference	Reference
Yes	0.25 (0.16-0.39)	0.68 (0.44-1.07)	2.48 (1.77-3.46)	4.52 (2.99-6.84)

医師の年齢層, 専門 (精神科, それ以外), 頻回に処方する睡眠薬のクラスを選んだ理由 (作用時間, 使い慣れ, 勧められた, 薬価) で調整.
赤字は有意な正の関連を, 青字は有意な負の関連を示す.

- 本研究はORAを頻回に処方している医師はORAを有効かつ安全性が高い薬剤と考えていることを示しました.
- また, BZやNBZについては, 医師は安全性に関する懸念を理解しながらも有効性を期待してやむを得ず処方している可能性が本研究より示唆されました.
- 今後, 有効性と安全性が確立された不眠症に対する認知行動療法が広く普及するとともに, 安全性の高い新規催眠薬が効果を示さなかった患者さんに対する治療戦略に関するエビデンスが蓄積されることが期待されます.
- 本研究は科学雑誌『Frontiers in Psychiatry』に2023年1月31日に受理されました.